

みなとまち新潟のまちづくり

◆新潟開港150周年

新潟は、古くから越後平野を流れ日本海へ注ぐ信濃川や阿賀野川の川湊として栄え、川沿いの各地域において物資が流通し、河口地の新潟湊が舟運と海運をつなげる結節点として役割を果たしてきました。江戸時代には、北前船の寄港地としてにぎわい、人・物・文化が新潟を拠点に交流し日本海側最大の湊町として繁栄しました。1869年の開港以後、近代港湾としての機能が整備され2011年には国際拠点港湾に位置付けられるなど日本海側を代表する港として発展しています。

新潟港は、安政五カ国条約で開港五港の一つに指定され、2019年1月1日で開港150周年の節目を迎えます。今年7月に開催の「海フェスタにいがた」を皮切りに150周年記念の各種事業を開催し、「みなとまち新潟」を国内外にアピールしていきます。

◆拠点化と個性化のまちづくり

本市は、上越新幹線、鉄道、新潟空港、新潟港、高速道路、国・県道といった交通ネットワークが充実しています。本市の都心部は、「新潟駅周辺地区」、「万代・万代島地区」、信濃川の萬代橋を渡って「古町地区」と約2km区間に3つの商業・業務拠点が新潟駅からの国道を軸に結ばれており、これを「都心軸」と位置付け各拠点の連携強化を図っています。現在、新潟駅周辺の連続立体交差事業を実施中で、今年の4月には第一期開業を迎

えます。新幹線と在来線が同一ホームで乗り換え可能になり、2つの踏切が廃止されるなど、これまで線路で分断されていたまちの一体化が一層進みます。さらに、2021年度には高架駅が全面開業するほか、駅直下のバスターミナルや万代広場を整備し、交通結節点の機能強化と駅南方面への基幹公共交通軸の形成を図ります。

万代・万代島地区では、重要文化財「萬代橋」を挟んだ信濃川上下流の河川空間を「交流軸」として位置付け、信濃川河川区域において、2011年の河川占用許可準則の改正を受け、2016年度より萬代橋から八千代橋間の堤防「やすらぎ堤」約18ヘクタールの区域を民間事業者が活用しています。2017年は世界的なアウトドアメーカー「スノーピーク」にマネジメントを委託し、アウトドアと健康をテーマに「水辺のアウトドアラウンジやすらぎ堤」として運営しました。河川敷に14の飲食店が出店し7月～9月で3万5千人の方に利用いただいたほか、親子アウトドア・カーヌー体験等が開催されるなど本市の新たな賑わい空間が創出されています。今後さらに定着化を図り、エリアマネジメントによる賑わいを創出していきます。

◆ファシリティマネジメントと連携した まちなか再生

古町地区は、古くから商業・業務機能が集積し、みなとまちの歴史や文化を支えてきた象徴的な地区で、かつては市役所や百貨店、映画館などがあ

新潟市長 **しのだ 篠田** **あきら 昭**



り多くの人で賑わっていましたが、消費動向の多様化や郊外店の進展、集客施設の移転や撤退などにより活力が失われつつあります。現在の市役所は分館の老朽化・耐震化対策が急務となっており、質の高い行政サービスの提供とまちなかの賑わい創出を目指し、行政機能の一部について古町への移転を進めています。移転にあたっては、コストや施設規模の適正化などファシリティマネジメントの観点から、既存商業ビルの低層階を取得し、中央区役所を昨年8月に移転しました。また、撤退した百貨店跡地で民間再開発事業を進めており、2020年に本庁組織の一部を移転する予定です。移転により来庁者と市職員など約3,000人/日の新たな人の流れが生まれる見込みで、まちなか再生への様々な波及効果を期待しています。

◆インフラマネジメント

新潟市が管理する道路延長は国・県・市道の合計で6,858km、橋梁数は4,055橋であり、道路延長、橋梁数共に政令市第3位です。また、橋梁については道路法の改正により、道路橋全ての点検が義務化されたため、道路附属物を含めた、これらの維持管理に必要な財源確保や、効率的な維持管理手法の検討が喫緊の課題となっています。

道路の維持管理については、国県道などの道路パトロール路線のうち、損傷箇所等が確認された路線を対象に路面性状調査を行い、損傷の規模に応じ優先順位を決定し修繕を行っています。また、道路陥没の予防として、緊急輸送道路及び災害時

拠点施設を結ぶ路線を対象に、路面下空洞調査を行い、調査結果に基づき適切な対応を行っています。橋梁の維持管理については、2015年度に新潟市橋梁アセットマネジメント検討委員会を設置し、産・学・官の連携により、新潟市道路橋の戦略的な維持管理体制への深化を議論しています。

委員会での意見を踏まえ、2010年度に策定した新潟市橋梁長寿命化修繕計画では、橋梁の重要度や補修優先度の考え方など見直しを行ったほか、点検の効率化を図るため、タブレット端末を活用した簡便な手法による小規模橋梁点検や、橋梁修繕のスピードアップを図るため、設計施工同時期発注などの社会実験を実施し、効果検証を行っています。

今後も市民の安心・安全を確保するため、社会情勢の変化を踏まえ、適宜計画を見直しながら、道路の効率的・効果的な維持管理に取り組みます。

◆おわりに

これからのまちづくりは、民間企業の持つ企画力・資金力・ノウハウや市民のアイデア・地域活動に対して、行政が必要な規制緩和や新たな仕組みを創設するなど、多様な形で行政が参画していくことが重要と考えています。今後も民間企業や市民・地域と連携し、拠点化と個性化に向けた「みなとまち新潟」のまちづくりを推進し、本市の魅力と暮らしやすさの向上を図ります。